

## 基本理念

# 社寺発展 法輪転輾

## 全社目標

神社仏閣の発展に貢献し、大和の心を弘めること。

## 経営方針

一	「笑顔の頑固職人」輩出	卓抜した技術力・芸術性と人間性
二	流麗・荘厳	常に顧客の期待を超えよ
三	矛盾の統合	経営の要諦

## 社訓

一	技術力	細工	千年の風雪に耐える建築技術を身につけること
二	芸術性	全体観	参拝者に感動を与える芸術的センスを磨くこと
三	読心力	真のニーズ	お客様の心の声に耳を傾ける、豊かな心を育むこと
四	棟梁力	経営能力	現場を仕切り、お客様を笑顔にする力をつけること
五	信仰心	誠実さ	誰も見ていない所でも正直に、心を尽くして仕事をする事。

# ●●●●工務店 社員の心得

平成 27 年 4 月 17 日 第二版

## 第一条 「日本一の職人を目指す」という高い志を持つこと。

日本一を目指さないということは、他にもっと良い建築を提供する会社があるということだ。

これでは、他に仕事が回ることになり、会社も個人も豊かにならない。

絶対に時間労働者にはなるな。「どこにも負けないものを提供します」と言い切れる宮大工になろう。

## 第二条 必ず笑顔で挨拶をし、柔和な心で仕事に臨むこと。

適度にリラックスし、ポジティブな状態であれば、日々の仕事が上出来になり、ミスも減る。

お客さまは気分が良くなり、相手と調和できる。

仕事で関わる人たちと調和し、平らかな心を維持することこそが、流麗な線を生み出す秘訣だ。

## 第三条 常に、「顧客は正しい」と考えること。

「顧客の立場に立つ」と同義。お客様と相対する時に、一度受け入れないと、心の声は聴こえない。これがより深いニーズを発見し、引き出す方法であり、「付加価値」と「差別化」を生む。

無理難題の中に真のニーズが隠れていることも多い。「無理、できない」という言葉を使わないこと。難しい場合でも代替案を考えよう。

また、この考え方を持つようになると、良い顧客が増え、そうでない人とは縁が切れる。

## 第四条 「究極」を生み出すための集中力を養い、凜とした空気感を創り出すこと。

卓越した技を発揮するには、集中力が大事だ。適度な緊張感を持ち、背筋を伸ばして誠実に取り組むうちに、心が鏡のようになり、一流を目指す気概がオーラを放つようになる。

すでに一流の職人になったように振る舞い、プライドを持って仕事に打ち込もう。

## 第五条 環境整備を徹底し、効率の良い仕事環境を創り出すこと。

清潔で整理整頓された環境は、凜とした空気を創り出し、集中力を生む力になる。

環境整備は、清掃と整理整頓で成り立つ。環境整備に時間をかけても、その分作業効率は上がる。

整った作業環境を見て喜ばないお客様はいない。作業場、現場、事務所を常に美しく保て。

## 第六条 知は力なり——。常に、質の高い知識を増やし続けること。

日本一になるためには、高い技術力や芸術性の発揮と、予算や工期などの制限との矛盾を統合する必要がある。その矛盾を統合するカギは「知識」にある。まず、「無知の智」を悟ること。次に、勉強の必要性に目覚めることが大切だ。技術知識、芸術知識、読心知識、経営知識、神仏に関する知識において博学となれ。

## 第七条 仕事の質を高く保ちつつ、時間の短縮を心がけること。

職人として磨くべき大切な能力が 2 つある。ひとつは、すべての仕事を G(ゴール) P(ポイント) S(ステップ) で考えて、ミスをなくし、時間を短縮する力。もうひとつは、「技」を磨いて、質の高い仕事を、手早くこなす力だ。さらに、棟梁としては、工事全体の「質」と「効率」を上げる工程管理を行って、工期を厳守し、お客様の期待を超えることが必要だ。現代というスピード社会では、時間の短縮を実現する会社が成功する。

## ●●●●工務店 社員の心得 解説

### <総論：社員の心得とは>

心得をつくることになった、一番のきっかけは、ボンヤリと毎日の仕事をしてほしくないからです。

「朝が来たから仕事に行って、夕方になったから終わって帰る」というサラリーマン的時間労働者になってほしくないということです。

今の社員がそうであるとは思いませんが、油断があると人間は安きに流れやすいものです。

ミスや怪我のほとんどは、必ず気の緩み、油断の中から起きるものです。

安定した、ほど良い仕事量が続く時こそ、油断しがちであるので、みんなの心の指針になるようなものを作っておきたいと思って、今回、指針としてまとめることにしました。

どうやったら自分にとって最高の仕事ができるか、どうやったらお客様を喜ばせる出来るようになるか、ということを常に念頭に仕事に取り組む職人であってほしいのです。

もし、職人が時間の切り売りをしていとしたら、流麗・荘厳な建築などは決して出来るわけはありません。

### <第一条>「日本一の職人を目指す」という高い志を持つこと。

何かサービスを提供する時に、「ウチのは第三位なんですよ」と言ったら、お客様はどう思うでしょうか。

反対に「ウチはどこにも負けません。日本一の技術を提供します」と言い切れたら、お客様はどう感じるかということです。「お客様に満足してもらおう」ということは、日本一を目指しているからこそ出来ることなのです。

では「どうなったら日本一か」ということを考えてみましょう。

実は、これには数値化された基準はありません。

売上高が日本一だからと言って、宮大工としての腕前が日本一かどうかは判らないからです。

日本一の宮大工と言えば、西岡さんという名前が出てくるでしょう。国内の誰もが知っているような神社仏閣の工事に中心的に携わった宮大工も、実績を積み、信用を得、名前が知られるようになったのです。

その信用の元になるのは、知識、技術、精神の3つです。

まず「知識」です。社寺建築の世界には、幅広く、膨大な量の知識が詰まっています。それをすべて知ることは難しいことですが、興味を持って学習し続け、知識を常に増やしていく姿勢が大事です。

まず、大工仕事に関する知識があります。細工の構造、継ぎ手の名称や技法などを知っておく必要があります。それから、社寺建築の構造的な知識。柱があって、桁が乗っている。そこに彫刻や飾り物が付いていたり、屋根が反っていたり、曲がっていたりする、きわめて特殊な木造建築ですが、それぞれに「決まり事」があります。そして、木についての知識も大事です。材料の良し悪しは、きちんと目が読めれば分ることです。あるいは、寸法を決めるのに削っていきますが、「これ以上削ると節が出る」ということなども、目を見て判断する必要もあります。また、産地によって使い道を決める眼も大事です。前出の西岡師は「山を見て木を買え」と言ったくらいです。材種によって特徴や金額が違うので、適材適所に使いこなす知識も大事です。

さらに、建物の歴史・様式についての知識があります。社寺建築の様式は、似ているようで、種類が豊富であり、それが歴史とともに変化しています。平安期の優美な線。安土桃山期の絢爛豪華。江戸期の洗練・調和。その前期中期後期でもゆっくりと変化している点もあります。このように、社寺建築の歴史は膨大な知識の宝庫です。

以上の点において、知らないことがあったら恥であると思って、日々に勉強を重ねる態度が大事です。

発展の秘訣は「永遠の未完了」にあるということを知って頂きたいと思います。

次に「技術」です。知識を具現化するのが技術です。日々の仕事、一つひとつの仕事に真剣に向かい、より正確に、よりスムーズにこなしていくことを心がけてください。良い職人ほど手が速いものです。

そして、「精神」です。宮大工としての自信と誇りを持っていただきたいと思います。予算の多寡や工期の長短はありますが、制約の中でも、常に立派できちんとした、お客様が喜ぶ神社仏閣を造るという気概を持つことがとても大事です。「制約の中でも最大限に良い仕事をしよう」という気概ある職人ならば、くわえタバコで身体を斜めにして仕事をする人はいないでしょう。

高額な工事費を払っていただき、その責任を果たす、プロとしての自信と誇りは、この神社仏閣の世界、歴史に関する知識を深めるほど高まります。

予算や工期の制約や事情は、参拝客には関係ありません。神聖な気持ちで参拝に来られる方が手を合わせる姿を想像し、参拝客を感動させることに思いを馳せて仕事をしてください。これが「精神」ということです。

この3つにおいて、日本一になるという目標を持って、日々の仕事に取り組んでほしいのです。

それが、会社として、日本一の職人集団を目指すという方針です。

まず、この言葉を、全員が受け入れられる会社になりたいと思います。全社員が「日本一を目指す」という高いモチベーションを持っている会社になりたいのです。

そのために、社長自らが、真剣に日本一を目指し、日本一の精進をしようと思います。

### **<第二条> 必ず笑顔で挨拶をし、柔和な心で仕事に臨むこと。**

次に大事なものは、やっぱり笑顔です。

第一条には、やや厳しい面がありますが、これは内面に秘めるべきものです。しかし、これを露わにして仕事をしていたら、単なるしかめっ面の頑固職人でしかありません。

当社は、お客様を喜ばせることにおいて、日本一になりたいのです。

だから、ケンカ腰で仕事をしてほしくないということです。内面に秘めた厳しさはあるけれども、人に接する時は明るく、仕事には適度にリラックスして、朗らかに取り組んでください。

他業者で、しかめ面をしていたり、暗い顔で仕事をしていたり、ケンカ腰で仕事をしている人をよく見かけます。

挨拶もろくにできない者が多いのも現状です。これでは絶対に良い仕事は出来ません。

辛そうな顔、おっかない顔で仕事をしていたら、お客さんも気分は良くないでしょう。

会社としては、皆さんのための快適な仕事環境づくりも必要だと思っています。皆さんの精神状態に影響を与えるのは、時間的なことや金銭的なことですから、工期があまりにも短かすぎたり、無理難題を押し付けたりすることは、精神衛生上良くないのは承知しています。

ただ、商売には、無償で奉仕する部分も必要なので、ある程度は仕方がない面もあることも知ってください。

会社として利益を上げ、内部留保を蓄えつつ、良い設備、良い道具を整えることも、矛盾することですが、みごとに統合してゆこうと考えています。

### **<第三条> 常に、「顧客は正しい」と考えること。**

これは、第二条のさらにワンランク上の考え方です。

我々は、建築においてはプロフェッショナルです。設計屋さんとお客様の関係を見ればわかるように、「知らないくせに」という意識が働いて、高飛車な物言いになってしまうことがあります。

突飛な注文や、おかしいと感じる注文の中にも、お客様には何かしら、「こうしてほしい」と求めているものがあります。お客様と目線を合わせて、真のニーズを読み取ることができれば、それは大きな差別化になります。条件が限られた、難しい仕事を笑顔で引き受けることは、付加価値になって、いずれ返ってきます。お客様の満足が大きければ大きいほど、後の収入は増えていくのが商売の法則なのです。

#### **<第四条> 「究極」を生み出すための集中力を養い、凜とした空気感を創り出すこと。**

宮大工の真骨頂は、仕事をする姿に表れます。

たとえば、お客様がわれわれの仕事を見た時、「さすが、一流の宮大工というものは、一般の大工とは違う」と思えるような姿勢で取り組むということです。

テレビなどに取り上げられる有名な職人が仕事をしている姿は、それほど「絵」になっています。

最後の宮大工と言われた西岡常一氏の職場では、全員が神聖な儀式を執り行うかの如く、姿勢を正し、仕事に集中し、神聖な空気を創り出していました。その心地よい緊張感が大切なのです。

集中している姿というものをたとえば、禅僧が精神統一をしている状態です。

心を鏡のようにする。それが「神仏のすまい」を造る上で、とても大事なことなのです。

ここで、心を鏡のようにする簡単な方法をお教えしておきたいと思います。

まず、目を閉じて、心に湖を思い浮かべてみます。心がざわついていると「心の湖面」はさざ波が立った状態になるはずですが、しかし、ゆっくりと、深い呼吸を繰り返して、次第に心を静めていくと、風が凪いで、湖面が澄み切った鏡のようになってゆきます。

精神統一のレベルは何段階もあり、果てしがありませんが、鍛練を積むにしたがって、短時間で心を澄ませることができ、またその状態を長時間持続できるようになります。

このように、無心に仕事に取り組む集中力が高まるにしたがって、二つの効果が生まれます。

一つは、建築物の質が非常に高まるということです。

そのように非常に透明感の高い心の状態で造られた建築物からは、凜とした空気が醸し出され、見る人に神聖な思いを抱かせるものです。

そしてもう一点は、仕事の効率が上がるということです。

無心になるほど仕事に集中していると、頭が冴えて、良いアイデアが浮かび、仕事の質が高まります。

そして、実にリズムカルな無駄のない動きが生まれ、仕事自体が捗るようになるのです。

実は、ここに、究極と効率を両立する鍵が隠されているのです。

「成功者になりたければ、成功者のように振る舞え」という格言があります。

最初は難しくても、一流の職人のように振る舞うことで、色々なことに気づくようになり、後から中身がついてくる、ということも事実なのです。

#### **<第五条> 環境整備を徹底し、効率の良い仕事環境を創り出すこと。**

建設業全体のトレンドとして「環境整備」が常識化され、ゼネコン系の現場ほど徹底されるようになってきました。朝昼晩三回掃除をするという徹底ぶりです。

しかし、反面で、「そこまで掃除に時間を使うのはムダでないか、その分仕事を進めた方が良いのではないか」という疑問も湧くかもしれません。

そこで、●●●●工務店としての環境整備のあり方についてお話しておきたいと思います。

まず、環境整備が大切である理由は、三点あります。

一点目は、掃除が行き届き、整理整頓がなされていると、職人たち自身の心が整うということです。

「見た目が整っていると、心が整う」のです。これは、先ほど述べた集中力に大きく影響します。

職人の心が乱れていれば、それは周りの環境に現れ、乱雑で汚れた状態になります。

心を整えることは大事ですが、反対に環境を整えることによって、心を整えることもできるのです。

環境整備を進め、一人ひとりの心構えができ上がると、道具を大切にできるようになることも良いことです。

ゴミ一つない、よく整理された現場には、凜とした空気があります。それは、お客様にとっても、仕事をする自分たちも気持ちが良いものです。さらに、私たち宮大工は、神仏が住まう場所はどこなところか、についても考えてみる必要があります。

日本には、「大掃除」という文化があります。神様はきれいな場所にしかお住まいにならないため、年神様をお迎えするために、江戸の町を上げて12月13日に江戸城から始まって、江戸の町中をくまなく掃除した習慣が始まりです。このように、福の神は美しい感情にしか宿りません。物が散乱し、汚れた場所が好きなのは、蜘蛛の巣が張った天井裏に住む貧乏神だけなのです。

神仏のすまいである、神社・仏閣を建てるのだから、美しい環境を保つことが大事である、ということなのです。

二点目は、整理整頓ができれば、仕事の効率も上がる、ということです。

掃除や、整理整頓が行き届いていない職場では「俺の差金どこ行った？」というように「道具探しで日が暮れる」ことが多くあり、効率を落とす原因になります。

①道具や材料の置き場所が決まっていること。②そして決められた場所に収納されていることが、整理整頓の条件です。こうすれば、誰が、どの道具を使う場合にも、すぐに手に取ることができるようになります。

三点目に、怪我や事故を防ぐという目的があります。

足の踏み場な無いような、モノが散乱している状態で仕事をしていれば、怪我・事故につながるのは当然のことです。自らの身を守り、仲間の身を守り、家族を守るためにも、安全には留意して頂きたいと思います。

本条文の冒頭で述べたように、ゼネコンなどが環境整備を徹底する第一の理由は、この事故の予防なのですが、宮大工としては、心が散漫になることこそが最大の問題であるということは重ねて言っておきたいと思います。当社では、「仕事がひと区切りついた時、次の仕事、作業に移る時に、清掃をし、道具の整理整頓を行うことで、心を整えて、次の作業に臨む」ということをルールにしたいと考えます。

## ＜第六条＞ 知は力なり——。常に、質の高い知識を増やし続けること。

「知は力なり」という格言の通り、知識の質と量が日本一の決め手になります。

卑近な例ですが、ラーメン屋が2軒並んでいたとします。事前情報がなければ、どちらに入るか迷います。

そのうち一方が、県外からも人が来て、普段は並ばないと食べられないような人気店で、たまたま雨が降っていて、時間も早かったために、2軒ともガラガラだったとしたら、ハズす可能性は50%です。

「知っている」ということは強いのです。

仕事にしても同じです。会社の経営者が、経営判断に迷っているとします。間違った判断をすると倒産することもあります。しかし、世の中のたいていのことは、誰かが経験済みであり、本や教科書になっているものなので、知識さえあれば、生死を分けるような危機さえも回避することが出来るのです。

「無知の智」という言葉は、知の大家である哲人ソクラテスの言葉で、「自分は、大切なことを知らない」ということを知っている、ことが、智者への第一歩であるという意味です。

私たちにとっては、技術知識、芸術知識、読心知識、経営知識、神仏に関する知識は特に大事です。

技術知識が豊富であるほど、「細工への期待」に応えることが出来ます。

芸術知識が豊富であるほど、建物が完成した時の流麗さ、荘厳さが違ってきます。

読心知識が豊富であるほど、お客様の真のニーズが分り、喜ばせることが出来ます。

経営知識が豊富であるほど、現場を見事に仕切り、会社に利益をもたらし、あなた自身も豊かになることが出来ます。そして、すべての知識を備えるほど、矛盾を統合出来るようになります。つまり、「高い技術力」と「予算・工期」のなかに起こる矛盾を高いレベルで解決できるようになるのです。

私たちの日本一へのカギは、質の高い、豊富な知識を生かせるようになるところにあると言えるのです。

## ＜第七条＞ 仕事の質を高く保ちつつ、時間の短縮を心がけること。

職人として、皆さんが「良い仕事をしよう」と常々考えてくれているのはとても素晴らしいことだと思います。

これからは、その一方で、「良い仕事」を「速くこなす力」が大事になる時代です。

昔ならば、仕事を頼めば職人任せで、工期が長くなってもお客様は黙って待っていてくれました。

ところが、現代では、世の中のサービスが向上し、また、一般住宅工事の考え方が浸透してきたため、お客様の要求が厳しくなっているのです。

ですから、お客様に満足して頂き、会社を成長させるためには、立派な建物を速く建てることが必要不可欠です。

つまり、質の向上と時間の短縮を両立する、という矛盾を解決しなければならないのです。

さらに、当社が日本一を目指す上で、「時間短縮」は最重要のキーワードの一つです。質の高い仕事を速くこなせれば、お客様は喜んでくださり、私たちは多くの仕事ができるため、増収増益が実現します。

すべての仕事を時間短縮してゆくために、これから当社で共有する方法が「GPSモデル」です。

### 【G：ゴール】

納期、完成をイメージすることです。ゴールがありありと描けていて、道筋が見た上で、目の前の仕事をすれば、必ずその目標や理想に向かって進んでいくことになりますから、モチベーションも上がり、良い仕事ができるようになります。

### 【P：ポイント】

お客様が喜ぶポイントはどこか。どこを押さえたら負けにならないか。捨てるべきはどこか。ということです。仕

事が整理されていて、“やるべきこと”と、その“さじ加減”が分かっているならば、とても効率の良い仕事ができるようになります。

### 【S：ステップ】

仕事の順番、段取りのことです。ストーリー(物語り)を描くように、想像力を働かせて、時系列を追って、起こるであろうことを予想して対応しておきます。

ただし、あくまでも宮大工としての誇りを持ち、高い技術力を磨いてゆくことが本道であることは言うまでもありません。意外に、上手な人ほど「手が早い」ところがあるのです。「段取り力」と「技の向上」の二つが大事です。

また、当社が日本一になるために、全員が「棟梁」としての仕事ができるようになろうとしています。

棟梁としての役割は、職人の役割に加え、さらに工事全体を観る「全体観」「大局観」というものが大事です。それが「工程管理」という仕事における能力なのです。工事全体を見て、下職段取りの「順番」と「タイミング」を絶妙に図っていくことで、現場がスムーズに回ります。

工程管理を行う「棟梁」がしっかりしていれば、工期を厳守し、お客様の期待を超えることができます。

宮大工と言えども、ますますスピード化していく社会にある以上、時間の短縮を実現することが成功の鍵であることは間違いないのです。



# ●●●●工務店 社員の心得 ワークシート

平成 27 年 3 月 25 日 第一版

## 第一条 「日本一の職人を目指す」という高い志を持つこと。

日本一を目指さないということは、他にもっと良い建築を提供する会社があるということだ。  
これでは、他に仕事が回ることになり、会社も個人も豊かにならない。  
絶対に時間労働者にはなるな。「どこにも負けないものを提供します」と言い切れる宮大工になろう。

Q1) 自分が、日本一の職人になった姿をイメージしてみましょう。

例)「有名な神社仏閣のお抱え大工になっている」「京都奈良の有名な神社仏閣の工事には必ず声がかかる」等。

Q2) そのイメージを実現するために、どんな努力をしようと思いますか？

例)「積極的に優れた建築物を観る」「建築書を読む」等

## 第二条 必ず笑顔で挨拶をし、柔和な心で仕事に臨むこと。

適度にリラックスし、ポジティブな状態であれば、日々の仕事が上出来になり、ミスも減る。  
お客さまは気分が良くなり、相手と調和できる。  
仕事で関わる人たちと調和し、平らかな心を維持することこそが、流麗な線を生み出す秘訣だ。

Q1) あなたは、毎日、人と接する時に、どんな顔であいさつをしていますか？

考えるヒント：家族に対して、同僚に対して、お客様に対して、業者さんに対して、一つひとつ考えてみましょう。

Q2) あなたが、常に穏やかな心でいるためには、どんな工夫をしたらよいと思いますか？

例)「十分な睡眠時間を取る」「時間に余裕をもって行動する」「気分に関わらず笑うようにする」等